

研究課題

情報ミニコミ誌（フリーペーパー）を活用した
情報教育の実践

副題

～地元地域の商店街の活性化と生徒の地域貢献のために～

学校名	大阪樟蔭中学校
所在地	〒577-8550 大阪府東大阪市菱屋西4-2-26
学級数	10
児童・生徒数	299名
職員数／会員数	28名
学校長	篠原 芳雄
研究代表者	船田 智史
ホームページ アドレス	http://www.osaka-shoin.ac.jp



1. はじめに

本校は、大阪府東大阪市に位置する私立大学が併設された付属の中高一貫教育を目指す総合学園です。進学先としては付属大学に進学する生徒と、中堅以上の大学に進学する生徒の割合が約 50% になっております。周囲の地域には、公立中学・公立高校が多く存在し、私立の学校も隣駅まで含めると、3、4校が隣接しております。そういう環境の中において、本校が周辺の地域の住民の方と教育活動を共に進めていくという土壌はほとんどなく、本校自体が地域に対してやや閉ざされた一面を持っていることは否めません。

東大阪市は大阪でも有数の中小企業の町であり、工場も多数見られます。本校は、近鉄奈良線河内小阪駅下車徒歩3分という場所に立地しており、大阪市や奈良市へも比較的近く電車通学をしている生徒も多数在籍しております。河内小阪駅の北側・南側には、古くからのアーケードの商店街として商店が建ち並び、大小 200 件のお店が軒をつらねております。本校に通う生徒の多くは、近くにあるその商店街の中を通ることなく、駅と学校の間を通学路としております。

生活指導の厳しい本校では、登下校中に商店街に寄り道するということは全くないために、生徒が地域住民、とりわけ小阪商店街の店舗の方々と触れあう機会是在学中にはないのが実情です。本研究では、中学生が地域社会の一員として交流を深めることも含めた、キャリア教育実践として、この研究課題を設定いたしました。

2. 研究の目的

中学校学習指導要領解説技術・家庭編の第2章第2節技術分野の2の「D 情報に関する技術」において、「(2イ) 多様なメディアを複合し、表現や発信ができること」とあります。その際、著作権などにも配慮させるという記載もされています。情報教育において、情報の収集・編集・発信という一連の情報活用能力の育成という観点から、昨年度以降、本校の「技術」の教科において、情報教育をメインの柱にし、これまでのコンピュータスキル重視のカリキュラムから、総合学習を中心とした ICT 授業に方向転換をいたしました。本研究では、中学生としての適切な素養として、地元商店街の店主との双方向の交流を通し、①見知らぬ大人の方に対して適切な対応ができること（コミュニケーション力）、②地域の商店街の活性化や地域のコミュニティに貢献できること（地域貢献）、③IT を利用した情報ミニコミ誌（フリーペーパー）を作成し公表することで、情報活用能力や表現技能を育成できること（情報教育）を目標とします。

3. 研究の方法

本研究は、平成 22 年度中学 3 年生全員を対象にした、週 1 時間の「技術（情報）」という科目の授業時間で実施をしました。研究活動のメイン（研究授業）を 2 学期から 3 学期にかけて行い、1 学期後半からはハード面やソフト面での下準備の期間としました。3 学期後半にはまとめと発表ができるように、1 年を大きく区分けしました。

● 1 学期から夏休みにおいては、①実践授業のための環境

整備期間、および、②外部の協力先への事前準備期間としました。①環境整備では、実際に、授業をするコンピュータ室の準備が挙げられます。ほとんどの実践授業は、本校にありますコンピュータ室で実施していきました。本研究を実践する際のソフトウェアについては、印刷業者がアドビ社のフォトショップやイラストレーターを用いたデータしか受け入れてもらえない状況でしたので、マイクロソフト社のオフィス系を使わずに、イラストレーターでの編集作業に決めました。そのため、フォトショップやイラストレーターなどのソフトの使用環境については、コンピュータ室の管理をしている学園の IT センター（神田正治氏）と連携を取りながら、現在の PC でできる範囲で、制作活動を行っていくこととしました。②外部への協力依頼としては、特に、河内小阪駅周辺の商店街の方々に生徒訪問の許可を頂くことでした。それには、各店舗への個別対応ではなく、商店街の連合組織と協同で取り組んでいく必要があると考えました。趣旨説明をきっちりとするために、「学校」対「商店街」という位置づけで学校長からの文書をつけて依頼を進めてまいりました。2学期から生徒が商店街にくだしたときに、スムーズに受け入れてもらえるための準備期間としました。

●2学期から3学期にかけての研究授業では、①情報ミニコミ誌（フリーペーパー）という媒体についての学びを取り入れました。②記者としての取材の心構えを学習し、③生徒たちが実際に商店街の店舗を数回取材（写真1）して、情報の収集に努めました。④収集したその取材メモを中心に、情報ミニコミ誌の制作（編集作業）に入っていきました。⑤製作過程の段階で、店主の方々に途中経過の作品に対する意見を求める場も設定し、ブラッシュアップを進めていきました。⑥冊子にする製本作業は、出来栄のよさを考えて、印刷業者に頼むことにしました。⑦完成した冊子を使って、クラス内で完成披露発表会を行い、メディアへのプレス発表、商店街でのフリーペーパーの頒布作業を行いました。



写真1 取材の様子

4. 研究の経過

本研究は、夏休み中に連携先の小阪商店街と打ち合わせを、9月から翌年3月までの2、3学期で行いました。1学期末に担当教師によるミーティングをもち、実践授業に向けての企画や段取りの打ち合わせを行いました。また、小阪スタンプ会副会長兼取締役の奥謙二氏に商店街としての協力依頼をしました。実際には、趣旨説明、取材協力依頼、2学期からの段取りの確認、完成披露会の出席要請、完成後のお礼など含めて、10回近く訪問させていただきました。大阪樟蔭女子大学 IT センター長の神田正治氏には、コンピュータ関連教室で、イラストレーターやフォトショップといったソフトのインストールからメンテナンスまでを整備してもらいまし

た。研究における授業については、以下の時間割で進めました。当初の予定から大きく遅れて、3学期のぎりぎりまで編集作業（写真2）が続いてしまいました。

- ・9月14日（火）・・・情報ミニコミ誌の作成についての趣旨説明（ガイダンス）
- ・9月21日（火）・・・情報ミニコミ誌とは？いろんなフリーペーパーについて調べる
- ・9月28日（火）・・・取材における心構えについて
- ・10月12日（火）・・・グループ分け、取材店舗の決定、取材のシナリオづくり
- ・10月19日（火）・・・第1回店舗取材
- ・10月26日（火）・・・イラストレーターやフォトショップなどのソフトの使い方について
- ・11月9日（火）・・・取材をもとに下書きのまとめとレイアウトの検討
- ・11月16日（火）・・・担当店舗の記事の編集作業①
- ・11月30日（火）・・・担当店舗の記事の編集作業②
- ・1月11日（火）・・・担当店舗の記事の編集作業③
- ・1月25日（火）・・・担当店舗の記事の編集作業④
- ・2月1日（火）・・・担当店舗の記事の編集作業⑤
- ・2月8日（火）・・・中間プレゼンテーション（取材店舗からのコメント発表）
- ・2月15日（火）・・・担当店舗の記事の編集作業⑥
- ・3月1日（火）・・・最終プレゼンテーション（写真3）、および完成披露会



写真2 編集作業



写真3 最終プレゼン

5. 研究の内容

本研究は、情報ミニコミ誌（フリーペーパー）という媒体を通じて、情報活用能力の育成を中心に、地域社会の一員として貢献するための取り組みとして実施をしました。駅などに置かれているフリーペーパーを実際に分析をしてどういう記事がどういうレイアウトで見やすく作られているかを考えていきました。この段階では、作り手と読み手の両方の側面を体験して、情報冊子のセオリーを学び取っていきました。その上で、記者としての取材の心構えを意識して、取材内容を事前に練習しておきました。1回目は、授業中に、生徒たちが商店街の店舗を取材し、そのあとは、放課後や休日を使って情報の収集に努めました。グループによっては、数回から十数回の追加取材をして、記事のブラッシュアップに役立てていました。指導教諭も各店舗2回ずつ御挨拶とお礼をすることで、取材する生徒の様子も聞くことができました。収

集したその取材メモを中心に、イラストレーターを用いての編集作業に入っていました。試行錯誤をしながらの製作に、かなりの時間をとることになりました。製作過程の段階で、店主の方々に途中経過の作品に対する意見を求める場も設定し、その受け答えを発表する中間プレゼンテーションをすることで、さらなるブラッシュアップができたと思われまゝす。製本作業は印刷業者に頼むことにしたことで、締め切り日ぎりぎりまで、最終チェックで慌しくなっていました。3学期最後の授業では、前日に納品された1000部の完成した冊子を用いて、各クラスで完成披露発表会を行いました。3月14日には、メディアへのプレス発表が実現し、3月22日には読売新聞に取材記事が掲載されました。3月16日の小阪商店街での有志生徒によるフリーペーパーの頒布作業(写真4)では、約90分で200部近くの冊子が配布できました。最終プレゼンテーションでは、店舗の店主の方にも来校を賜り、授業の様子を見ていただいた店主の方からコメントを頂く時間も取りました。中には、こういう取り組みに対して、「スキルやテクニックも大切であるが、最初にこの冊子の読み手をイメージすることが大切である」という貴重なご意見まで拝聴できました。



写真4 配布作業

6. 研究の成果と今後の課題

以下の3点について、本研究の成果があったと言えます。

①正しい対人関係の取り方ができない、適切なマナーが身に付いていないと言われる今の生徒たちに対し、事前指導の後に実践経験からコミュニケーション力を学ばせることを主眼にしました。取材中の生徒たちの態度・言葉遣い・礼儀などが様々な場面で正しく対応できていることが確認できました。

②学校の中での閉ざされた学習ではなく、教育の現場を地域社会の方々に公開することで、生徒の制作活動を本気モードにさせることができました。そのために、情報ミニコミ誌の製作において、取材から配布作業に至るまでのすべてを生徒たちの手でさせることに意義がありました。そのことによって、「地域社会への貢献」を、生徒たちが身をもって経験できたと思われまゝす。

③ICT 機器を表現の1つのアイテムとして捉え、自己中心的デザインや表現技法ではなく、顧客(商店街の店主)の要望も取り入れたいわゆる「広告代理店」としてのスタンスをもって編集作業をするという学習効果に一定に成果をみることができました。特に、プレス発表をするために、東大阪市庁舎のプレスルームにて本当の記者の方から、今回の授業についての取材を受けることになりましたが、しっかりと受け答えができている姿がありました。結果、3月22日火曜日の読売新聞朝刊に、記事が掲載されたことが大きな成果として残ることになりました。一方で、3月16日水曜日に、小阪商店街や河内小阪駅周辺にて、情報ミ

ニコミ誌(フリーペーパー)の配布作業を実施しましたが、初めは道行く人になかなか受け取ってもらえない現状に難しさを感じているようでもありました。

今後の課題として、今回のような学校外の地域の方との取り組みにおいては、様々なトラブルも想定して対応していけないといけないと感じました。小阪商店街の全店舗の約25%の店舗を取り上げた冊子になりましたが、取り上げられなかった他の店舗から売り上げが減ったというクレームが学校にあり、学校長とともに謝罪するという経緯がありました。生徒数から考えて全店舗を取材することができない状況がありましたが、今後、小阪商店街すべての店舗を対象としたカリキュラムを考えていく必要性を感じました。

授業後の生徒の感想の一部を原文のまま紹介します。「インタビューの難しさに気がついた。普段何気なくみているフリーペーパーの大変さに気がついた。でも、出来上がったときはうれしかった。」「プレゼンは楽しかった。また、みんなの意見を聞いてよかった。」「一冊のフリーペーパーには、たくさんの方の努力が詰まっているんだと改めて感じることができました。」「自分たちからお店に取材をお願いしたこともあって、初めはちゃんと作らないといけないというプレッシャーがありました。でも、友達と協力して作っていくうちに、しっかりしたのを作りたいと自分から進んでパソコンに向かうようになりました。」「この授業を通して1番大事だなと思ったことは、コミュニケーションの大切さです。」「一人だと自分の思いついたことを好きなようにやればいけれど、グループだとそうはいかず、周りの人の意見も合わせて取り組まなければならないので難しかったです。」「地域の方々と交流ができて良かったです。こういう事は絶対必要だと思います。」「お店の人に笑顔で「ありがとう」を言われてとても嬉しかったです。」「ぼんやりしていたものが、グループの子やお店の人と話し合うことでだんだんははっきりしたものになっていくのが嬉しかったです。」「イラストレーターを使いこなすのは難しかったけれど、出来上がったフリーペーパーを見て「ここまで本格的にできるのか!」と感動しました。正直最初は課題だから作っていたというのもありました。ですがお店に行くたびに、このお店にはこんな良いところがあるんだというのを知ってもらいたいという気持ちになりました。この気持ちの変化は自分にとって良い経験でした。」

7. おわりに

今回の授業実践の取り組みが、キャリア教育の一環としてとらえることもできたことは確かであり、記者としての仕事を体験することで、生徒は初めて情報の収集作業の難しさを感じたことでしょう。その一方で、積極的に情報発信の作業に関わっていくことの楽しさや、お店の方のために、グループで作成するプロセスの大切さも実感していると、生徒の感想から読み取れました。

本研究の今後としては、1回きりのカリキュラムではなく、次年度へ継続していく形での実施を進めていきたいと考えて

おります。今回は、小阪商店街約 200 店舗ある中から約 25%の 54 店舗のみの取材になってしまったために、小阪商店街の一部の紹介で終わってしまっています。今後は、紙ベースではなくても、WEB という媒体を使うなどした手法で、小阪商店街全体を盛り上げていき、活性化させる企画へと進展していくことも考えられるでしょう。最後になりましたが、本研究の機会を与えて下さり、ご支援いただきましたパナソニック教育財団に改めて感謝申し上げます。3月1日の最終

プレゼンテーションの授業には、兵庫教育大学大学院准教授の永田智子先生に立ち会っていただき、様々なご指導を受けました。ありがとうございました。また、小阪商店街の店主様をまとめていただき、いろいろなサポートをしていただきました取締役の奥謙二様には、この場をお借りしてお礼を申し上げます。